

## 国際化学肥料ニュース (2016年8月)

2016年9月5日

### 肥料業界の2016年8月動態

- \* 南米アルゼンチンのMAPとDAP輸入量が大幅増加した。今年1~6月のMAP輸入量が前年同期より67%増の32.7万トン、特にロシアからの輸入量が1340%増の14.3万トン、サウジアラビアからの輸入量が239%増の10.3万トンであった。一方、今年1~6月のDAP輸入量が88%増の18.2万トン、その内訳はロシアから6.9万トン(約7倍増)、サウジアラビアから4.7万トン(13%増)、モロッコから3.6万トン(前年同期の輸入がなかった)であった。

ブラジルも今年1~7月のMAP輸入量が前年同期より4%増の126万トンである。その内訳はアメリカから42.7万トン(33%増)、ロシアから32.6万トン(15%減)、モロッコから24.6万トン(2%減)、中国7.2万トン(56%減)、サウジアラビアから14.9万トン(4倍増)であった。一方、1~7月のDAP輸入量が前年同期より22%減の26.4万トンである。その内訳はアメリカから13.9万トン(33%減)、ロシアから3.2万トン(26%減)、サウジアラビアから7.2万トン(77%減)であった。

- \* GPCA(中東湾岸石油化学工業協会)は中東湾岸地域の化学肥料に関する調査報告を作成した。豊富な石油・天然ガス資源とりん資源を背景に化学肥料の生産能力が急増した。2015年の生産能力が3780万トンに達し、製品輸出額63億ドル。その中にサウジアラビアの化学肥料生産能力が1670万トン、カタールの化学肥料生産能力が980万トン、地域のNo.1とNo.2を占める。2020年中東湾岸地域の化学肥料生産能力が4310万トンに増加する見込みで、世界最大の化学肥料輸出地域になる。9月6~8日に開催される予定のGPCAの第7回年度大会に報告する。

- \* 8月5日開札したインドIPL社の12万トン尿素入札は、最低応札価格はCFR196.60~196.95ドル/トン、すべてイラン産の尿素である。今回の最低応札価格は前回7月15日開札した最低価格より約15ドル/トンも上昇した。

- \* 中国統計局が発表した最新のデータによれば、中国の国内需要不足と輸出不振を反映して6月の化学肥料生産量が大幅減少した。6月の化学肥料生産量612.4万トン(純NPK換算、以下同)、前年同期より7.2%減少した。その内りん酸肥料の減少幅が一番大きく、14.1%減の142.79万トン、加里肥料が12.77%減の57.15万トン。但し、窒素肥料、特に尿素の減少幅が小さく、6.5%減の279.36万トンであった。

- \* 8月29日ロシア Uralkali 社は中国国営3社と2016年塩化加里輸入基本契約を締結した。供給数量60万トン、CFR 価格219ドル/トンで、先月ベラルーシ BPC 社の基本契約と同じ価格である。また、同じ日にインド IPL 社と2016~2017年度の塩化加里輸入基本契約も締結した。供給数量65万トン、CFR 価格227ドル/トンで、ほかの加里大手メーカーと同じである。これにより中国とインド両国は加里大手メーカーとの2016年塩化加里輸入基本契約に関する商談が終了した。

### 大手各社の営業業績

- \* 8月2日、アメリカ Mosaic 社が第2四半期の業績を公表した。主業のりん酸肥料と加里肥料の販売不振と価格低下により、売上高が32%減の17億ドル、純利益が前年同期の3.9億ドル黒字から1020万ドルの赤字に転落した。りん酸肥料部門の売上高9.76億ドル(30.3%減)、加里肥料部門の売上高4.57億ドル(37.4%減)、輸出を所管する国際販売部門の売上高5.34億ドル(16.2%減)であった。
- \* カナダ PotashCorp 社は第2四半期の業績を公表した。世界の化学肥料不況と価格低迷の影響を受け、4~6月の粗利が63.8%減の2.43億ドル、純利益が23.9%減の1.21億ドルであった。各肥料部門の業績は、加里肥料販売量が16%減の210万トン、粗利が73.9%減の1.23億ドル、窒素肥料販売量が8%減の150万トン、粗利が43%減の1.3億ドル、りん酸肥料販売量が25%減の50万トン、赤字1000万ドルであった。ヨルダン APC、イスラエル ICL、チリ SQM、中国化学肥料社などからの外国投資部門の配当額が4400万ドル。  
1~6月の業績は粗利が65.9%減の4.77億ドル、純利益が32.4%減の1.96億ドルであった。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* 8月3日、豊田通商はケニアのエルドレットに建設中の TTFA 肥料工場 (Toyota Ysusho Fertilizer Africa) が竣工し、8月中に稼働し始めたと発表した。当該肥料工場は化成肥料生産能力15万トン、総投資額10~15億円、豊田通商が100%所有する。ケニアは肥料工場がなく、年間約60万トンの肥料を輸入している。肥料工場の完成によりケニアの農業生産と経済発展に大きく寄与する。

### その他

- \* 中国の窒素肥料産業が未曾有の困難な局面に陥った。1~5月のデータによれば、尿素生産量2928.1万トン、窒素肥料全体生産量が0.3%減、尿素輸出量が28.8%減の433.6万トンであった。需要不振と生産過剰で、尿素の工場出荷平均価格が17.5%減の1322人民元(約198.8ドル)/トン、この10年間の最安値を記録した。メーカー

在庫が 65%増で、90%以上の尿素メーカーが赤字経営で、産業全体の赤字額 39.9 億人民元（約 6 億ドル）であった。7 月以降がさらに厳しくなり、非需要期に当たり国内販売と輸出量が非常に不振で、尿素メーカーの稼働率が 60%に低下した。

- \* 7 月 8 日アメリカ国際貿易委員会（ITC）がアメリカに輸出された中国産硫安に対してダンピングの初期裁定を下した。その根拠は①輸入中国硫安の販売価格が正常の市場価格より不当に低く設定され、国内硫安産業に実質的な損害を与えた。②中国政府は硫安の輸出に補助金を提供して、廉価に輸出させる。ということである。ITC 委員 6 名が全員その結論に賛成した。

アメリカの中国産硫安輸入数量が 2013 年 4.29 万トン（915.9 万ドル）、2014 年 20.77 万トン（5458.9 万ドル）、2015 年 33.53 万トン（6203.7 万ドル）。2014 年と 2015 年輸入数量が急増した。その急増ぶりに対して、2016 年 5 月 25 日 ITC が中国産硫安に対してアンチダンピングと中国政府不当補助金に関する調査を開始した。また、6 月 15 日アメリカ商務省も同様の調査を開始した。アメリカ商務省は 8 月 18 日に中国政府の不当補助金に対する初期裁定、9 月 1 日にダンピングの有無に対する初期裁定を下す予定であるが、9 月 4 日現在、アメリカ商務省からの発表がない。

- \* 8 月 16 日マレーシア国家石油（Petronas）の Sipitang 尿素工場はアンモニア漏洩事故が発生し、作業員 2 名死亡、3 名怪我、工場操業が停止した。

- \* 8 月 10 日ノルウェー Yara 社がインド Tata Chemicals 社所有の Babrala 尿素工場を買収することを発表した。買収金額 4 億ドル。2015 年以降、Yara 社は積極的に M&A を展開して、2015 年 2 月 5100 万ドルを投じてアフリカ最大の肥料小売商 Greenbelt 社を買収し、アフリカ南部の肥料販売網を入手した。同じ月、カナダの Agrium 社からアメリカ Sacramento 市にある窒素肥料工場と付属倉庫や輸送設備を 2700 万ドルで回収した。今年から 2.75 億ドルを投じてブラジル Drande River にある化学肥料工場を拡張することも発表した。

- \* カナダの PotashCorp 社と Agrium 社が合併に向けて水面下に交渉している。PotashCorp 社は世界最大の加里メーカー、生産能力約 1700 万トン/年、世界加里生産シェアの約 19%を占める。一方、Agrium 社はりん酸肥料と窒素肥料のメーカーで、加里生産能力約 250 万トン/年、加里生産シェアの約 3%しかないが、世界最大の肥料販売業者でもある。両社が合併されれば、北米の加里肥料の生産と販売シェアの 50%以上を握る。

2014 年から PotashCorp 社は M&A に力を入れて、中国 SINOCEM 社、ヨルダン APC 社、イスラエル ICL 社、チリ SQM 社の株式買収に計 45 億ドルを投じた。2015

年にドイツ K+S 社を買収する計画を出したが、失敗に終わったものの、2016 年 8 月にブラジル最大の肥料会社 Heriger 社の 9.8%株式を取得した。

両社ともニューヨーク証券取引所に上場して、目下の株式市場総額は PotashCorp 社 149 億ドル、Agrium 社 132 億ドル。合併にはカナダとアメリカ政府などの審査が必要で、実現するにはハードルが高い。

- \* アメリカはロシア産硝酸に対するアンチダンピング関税を延長しないと決定した。2011 年 9 月から 5 年間に実行したロシア産硝酸のアンチダンピング措置を終了した。その理由は 2013 年 4 月テキサス州に発生した肥料工場の硝酸爆発事件で、アメリカ国内の硝酸需要量が大幅減少したうえ、シェルガスの利用で硝酸生産コストが下落した。それに伴い硝酸輸入量も急減した。2015～2016 年度の硝酸輸入量が 26%減の 39 トンしかなく、ほとんどカナダからの輸入であった。